

# 第2次柏市教育振興計画 について

柏市生涯学習推進協議会資料

(令和2年11月5日 教育総務課)

## 社会の変化

- ・ 超スマート社会(Society5.0), 人生100年時代の到来
- ・ 変化の激しい社会を生き抜くための, 生涯にわたって学び続ける力を育成する必要性

## アンケート結果

- ・ 保護者層の学力への期待
- ・ 思いやり, 礼儀, 他者を尊重する意識の醸成への市民の期待
- ・ 家庭の役割の重要性
- ・ 放課後の子どもの居場所への市民の期待

## 柏市の現状

- ・ いじめの未解消件数, 不登校児童生徒の増加
- ・ 教職員の大量退職・大量採用による学校の組織力の低下
- ・ 教職員の多忙による子どもに向き合う時間の減少
- ・ 地域の協力団体等に恵まれている一方, 学校が地域の力を十分に取り込めていない, 地域の高齢化・特定の方への偏りの問題

## 現計画の取組

- ・ 学校図書館の充実, 人的配置の充実
- ・ 算数科授業力向上事業では, 児童の既習事項や授業の理解度を十分に把握し, 児童に合った指導を行うことによる成果
- ・ 脱いじめ傍観者プログラムの授業, STOPitアプリの提供
- ・ スクールソーシャルワーカーの配置拡大
- ・ 全学校に特別支援学級を設置。教育支援員, 医療的ケア看護師の配置
- ・ 全教職員に対し, 「性同一性障害や性的指向, 性自認に係る児童生徒への理解と対応」に関する研修を実施
- ・ ICTに関する取組の充実, GIGAスクール構想による取組の開始
- ・ 柏市教職員人材育成指針に基づく, 柏市の実態に合った人材育成
- ・ コミュニティ・スクールの取組を開始
- ・ 放課後子ども教室, みんなの子育て広場を小学校全校で実施

## 第2次柏市教育振興計画の方向性

(学校教育部分)

### ◆学ぶ意欲を育成する

子どもたちが生涯にわたり学び続ける基礎を培うため, 教職員の指導力を高めることで, 学校図書館, ICT, 人的支援を効果的に活用した, 子どもたちの実態に合った分かる授業を推進し, 子どもたちの学ぶ意欲を育成する。

### ◆互いの立場を尊重し合い, 安心して学び合える環境をつくる

いじめ・不登校対策の充実, 特別支援教育の充実を図ることで, 子どもたちが安心して学習できる環境に向けた取組を推進する。また, 互いに認め合い, 多様性を尊重する意識の醸成に向けた取組を推進する。

### ◆教職員の力量・学校の組織力を高める

独自性のある研修を実施することで, 教職員が個々の力量を高めつつ, 相互に学び合い, 高め合える体制づくりを推進するとともに, 子どもに向き合う時間を確保するため, 教職員の負担軽減に向けた取組を推進する。

### ◆地域・家庭とともにある学校をつくる

全校が, コミュニティ・スクールとなることで, 地域とともにある学校づくりを進め, 持続可能な取組を継続していくことで, 地域の活性化につなげていく。また, 家庭教育の支援の充実・放課後の子どもの居場所づくりに向けた取組を推進する。

# 基本方針及び施策体系について(学校教育部分)

## 未来にはばたく柏っ子

～学び続ける力の育成, 多様性の尊重, 安全・安心な学校づくり～



### 【基本方針の考え方】

- 未来の社会で活躍する子どもを育成するという想い
- 親しみやすいキャッチフレーズ
- 「学び続ける力」「多様性の尊重」が子どもたちに身に付けさせたい力
- その基盤となる「地域・家庭」「教職員」による「安全・安心な学校づくり」

### 【施策体系の考え方】

- 施策展開の方向に深く関連する事業・事務局として特に力を入れていく事業について、重点取組として設定
- 事務局として今後力を入れていく事業を、施策展開の方向に紐付け

### 【生涯学習推進計画との関係】

最終的な施策体系としては、第4次生涯学習推進計画の内容も含めた施策体系を設定する。

人生100年時代では、若年期において、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の涵養といった資質・能力を身に付けることに加え、生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高め、働くことや、地域や社会の課題解決のための活動につなげていく必要性が高まっている。

# 重点取組について

## 分かる授業の推進

- 学力・学習状況調査の結果等を活用し、児童生徒の実態を踏まえた授業改善を進めます。
- 授業公開の取組である「みんなでつくる魅力ある学校」を通して、授業力の向上を図ります。
- 算数支援教員や理科教育支援員の配置により、授業づくりの支援をします。

## ICTの利活用の推進

- 1人1台の端末を活用した授業改善により、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ります。
- ICT支援員の配置、教職員研修の充実により、ICTの活用を推進していきます。
- 柏市情報リテラシー育成カリキュラムに基づき、小中9年間において体系的に情報活用能力の育成を進めます。

## 情報モラル教育の推進

- 柏市情報モラル育成プログラムに基づき、小中9年間の発達段階に応じた情報モラル教育を進めます。
- 実際の危険事例等を基にした情報モラル講演を実施する中で、正しいスマートフォンの使い方を促していきます。

## いじめ防止対策の推進

- 「柏市いじめ防止基本方針」及び「いじめ問題対応の手引き」に基づき、いじめ対策を進めていきます。
- STOPitの提供と合わせた「SOSの出し方教育」「脱いじめ傍観者教育」「多様な性の理解(LGBT)」に関する授業を展開します。
- 指導主事によるいじめ防止授業を実施します。
- 学級経営アドバイザー、スクールサポーター等による学級づくりの支援をします。
- 人権教育研修等により、いじめの背景にある環境(貧困、ストレスなど)についての教職員の理解を促進します。
- いじめ防止サミットなどのいじめを許さない雰囲気づくりに向けた取組を進めていきます。

## 不登校等児童生徒への支援の充実

- 学校以外の通える場として、学習相談室、教育支援センターによる支援を行います。また、学習相談室指導員による訪問支援を行います。
- 不登校児童生徒に対し、1人1台端末を活用したオンライン学習等の支援を行います。
- サポート教員(生徒指導・不登校支援)により、不登校支援室・相談室などに別室登校している生徒への学習指導等の支援を行います。
- フリースクールとの連携を進めます。
- あすなるキャンプなど、社会的自立につながる取組を行います。
- 保護者に対し、不登校経験者の話を聞く機会の提供、進路についての情報提供、個別相談を行います。
- スクールソーシャルワーカーを増員するとともに、研修を実施し、質の向上を図ります。虐待が疑われる案件については、児童虐待の所管部署とも連携して対応していきます。
- 義務教育未修了の方や、不登校等で十分に通うことができなかった方など、中学での学び直しを希望する方等を対象とする夜間中学の設置について、調査研究を進めていきます。

## 特別支援教育の推進

- 教育支援員を配置し、担任を支援するとともに、交流及び共同学習を推進していきます。
- 通常の学級においては、特別支援サポート教員を配置し、取り出し支援も含めたサポートを行っていきます。
- 通常の学級での授業が可能と考えられる児童生徒について、段階的に通常の学級に戻していくことを促していくため、学校への周知や指導主事による学校訪問を行います。
- 医療的ケアが必要な児童生徒に対して、医療的ケア看護師を配置すること等により、適切な支援を行い、安全・安心な学校生活をサポートします。

## 学校施設・設備の維持管理

- 柏市立学校施設個別施設計画に基づき、計画的に老朽化対策を実施していきます。
- 引き続き、トイレの改修を進めていきます。
- 学校遊具点検を継続実施するとともに、安全に使用できるよう、修繕や更新を進めていきます。

## 教職員の育成

- 柏市教職員人材育成指針及び指標並びに柏市学校管理職人材育成指針及び指標に基づき、柏市独自の研修体系を構築するとともに、人材育成を効果的・計画的に推進します。
- 人材育成アドバイザーを配置し、学校現場への訪問の実施や学校からの相談を受けることで、学校経営を支援します。
- 「Off-JT(校外研修)」「OJT(校内研修)」「SD(自己研鑽)」の関連を図り、実効性のある人材育成体制を整備します。

## 働き方改革の推進

- 教育委員会・学校が連携し、柏市全体及び各学校の負担軽減策の検討を進めていきます。
- 保護者対応を始め、校務(学校事務)のさらなる効率化を目指した情報化を促進させ、教職員及び保護者の負担軽減を図ります。
- 部活動ガイドラインの運用を強化していくとともに、部活動の在り方を含めて検討していきます。

## 学校・地域・家庭の連携

- 学校運営協議会の全小中学校設置を令和5年度までに完了し、コミュニティ・スクールとしてスタートします。
- 地域学校協働活動の中心となる推進員を令和4年度から委嘱し、継続的に推進員の育成を進めることにより、学校運営協議会での議論が実際の活動へとつながる形に整備していきます。
- 放課後子ども教室の内容の充実、家庭教育支援「みんなの子育て広場」の充実を進めていきます。
- 教育福祉会館の自律(立)的な運営や公民館事業等を通じて、学校や地域で活躍できる人材の育成を進めていきます。

## 第1回有識者懇談会(8月20日)での主な意見等(1)

### 学び

- 学校現場で感じることとしては、人的支援とICTの活用がこれまでの計画の大きな成果だと思う。
- どのような授業をすれば、分かる授業・実態に即した授業につながるかを学校内で話し合う必要があるが、その話合いの時間を確保するためには業務改善をしなければならない。
- 子どもが家庭で独りになったときに学ぶ術を持たないので、GIGAスクール構想等を合わせて対応できるような教育をしていきたい。
- 学ぶ意欲を育成する上で、分かる授業の推進も大事だが、自分の興味関心があることを追求して、調べたり・勉強したりできるよう、地域・家庭・学校のそれぞれの立場で子どもの好奇心・探求心を支援できる環境・システムを構築できると良い。
- 一人一台のタブレットPCを家庭にも持ち帰って、家庭での学びに生かしていただくことが重要だと思う。その一つのモデル的なものを柏市で出していただくことを期待している。

### いじめ・不登校

- いじめ・不登校対策については、迅速・丁寧な対応をしていく必要がある。
- 学校だけでなく地域と一緒に考えていくのが良い。コミュニティ・スクールを全校実施し、持続可能な取組を継続していくことが大事
- インターネットやLINEによるいじめなど、新しいタイプのいじめが増えているので、そういった部分を注意して次の5か年に臨んでいけたらと思う。

### 特別支援

- 特別支援学級の中でさえ、個々の能力差が大きいと一斉の学習には困難があるのが現実。インクルーシブ教育システムの構築を進めるには、少人数学級や複数の教員による授業といった物理的な改善に加え、全ての教員に特別支援教育の視点を持ち合わせる必要がある
- どんなお子さんでも、どこクラスでも一緒に勉強することを現実にしていくためには、誰でも特別支援学級の担任をできるような、多様なお子さんに対応できる教員の力を付けていくことが大事
- 今はもう、インクルーシブ教育ではなくて、ダイバーシティ教育。柏市内でも、外国籍のお子さんと一緒に学んでいると思う。それぞれの多様な生き方、多様な文化背景を持つ方々がお互いに相互の違いを認め合って、一緒になって過ごして、それぞれに充実した学びができるようにするにはどうすればいいかという、ダイバーシティ教育についても計画の中に取り込んでほしい。

### 教職員

- 共働きが増えていて、PTAの活動の参加していただくことも難しいところがあるのが実情。ただ、PTAができること、協力できることがあると思うので、教職員の負担軽減に向けた取組など、計画の中でもPTAを活用することを考えてほしい。
- どうすれば、若手の教員の先生が、子どもと向き合う時間や自分が学ぶための時間を作れるのか。解決する手立て、手段、方策はないものか。
- 感染症予防を受けて、できないことが多くなったが、やり方を変えればできることや、思い切ってやらないと決めることができるようになった。優先順位を付けて業務を改善する視点を持ちやすくなった。
- 先生の姿、先生が笑顔でいることが大事。勉強したい時間を捻出するにはどうしたらよいかというポジティブシンキングが必要

## 第1回有識者懇談会(8月20日)での主な意見等(2)

### 地域

- 大きな町会でも役員のなり手が少なく親子会が解散している状況で、どのように学校、地域、保護者が連携していけるのかは非常に課題だと感じる。
- こども食堂、学習支援、若者支援という団体が平成28年ぐらいから広がり始めて、今現在約20団体ぐらいが活動している。地域住民の大人たちが子どもたちのためにということでの新しい動きが出てきたのは、非常に大きな動きだと思う。
- 柏市は、町会、ふるさと協議会、社会福祉協議会や、大学もあるので、産官学連携を含めたコミュニティ・スクールの形成が可能ではないかと思う。
- コミュニティ・スクールは素晴らしいと思うが、誰がやるかというのが大事。なり手がなくて、やってくれる人が大体同じになり、なかなか変わらなくて新しい意見が出ないようなコミュニティ・スクールだと意味がない。
- コミュニティ・スクールは学校運営のために地域が関わるイメージがあるが、それをきっかけにして、地域が学校や子どもに関心を持つ大きなきっかけになるのではと期待している。
- 放課後の居場所づくりは、これからも大変重要な課題だと感じている。

### 家庭

- コロナの影響で、6月から初めて3歳の子どもたちが入園となったが、みんな手洗いができている。これは、家庭教育によるもので、家庭教育の重要性を改めて感じた。学校と家庭との役割の位置付けが重要だと感じた。
- アンケートの子どもたちはどのような能力や態度を身に付けるべきだと思いますかという部分で、思いやり、優しさ、他者への寛容さ、常識、言葉づかい、礼儀、マナーが上位になっているが、大人たちがまずこの能力や態度が足りてない方が多いと思っている。こども食堂をやっていても、もらって当たり前、ただで当たり前という保護者が多い。こども食堂を通して、最低限のことは保護者も含めて声掛けをして、直していくことも必要なかなということに取り組んでいる。
- 学校と家庭が一緒になってという部分を考えると、何歳になっても何でも話し合えるような親子の関係性を築いていく必要があると思う。家庭環境がさまざまあるので、それぞれの家庭に合った子どもとの関わり方を考えていく必要があると感じた。

### その他

- 「学校が好きと感じている児童生徒の割合」について、教育活動の改善を考えると、何が好きかの理由まで把握した方が良い。
- 教育行政において、計画を立て、実践も一生懸命するが、具体的な事実、エビデンスに基づき振り返るのがなかなか大変。目的が達成したかどうか、対応させているような指標を策定すると、改善策が見えてくる。
- GIGAスクール構想をきっかけに、教育の仕方、学校の在り方も変革が必要な時期だと思うので、積極的に動いてほしい。
- 日本の子どもたちは我慢を覚えない。親も含めて、欲求がすぐ通るのを大事にしている。長い人生で学校が子どもに関われるのは、ほんの一瞬であるが、その一瞬にできることは何だろうかと考えていけると、少し何かが変わったり、見えてきたりするのではないかと思う。

## 第2回有識者懇談会(10月21日)での主な意見等

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>「未来の社会で活躍する子ども」という文言が一般の市民にとってイメージしにくいと思うので、非認知能力、主体性や課題解決能力の育成といった具体的なことを入れることができれば、4つの方向性とも結びついていくのではないかと。</li> <li>未来の社会というのがどんな社会をイメージするかというのを、学校とか中学校区で話し合うところから始めていかないといけないのではないかと。学校運営協議会、コミュニティ・スクールで、地域の方とも、この学校・地区の子どもたちの未来の社会はどんな社会か、どんな社会に子どもたちを送り出せるかを一緒に話し合えたら、基本方針にそれぞれの地区が近づいていけるのではないかと。</li> </ul>
ICTの利活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で対応している家庭での教育支援ということで、ICT関連を充実していることについて期待している。</li> </ul>
不登校等児童生徒への支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校等児童生徒への支援に重点的に取り組んでいくということで期待している。</li> <li>夜間中学設置の調査研究について、義務教育終了後の引きこもりの長期化を防ぐために重要と思う。前向きにお願いしたい。</li> </ul>
特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「通常の学級での授業が可能と考えられる児童生徒について、段階的に通常の学級に戻していくことを促していく」ことは、現場にとって喫緊の課題。先日指導主事の訪問による助言を得て、助けになった。今後も続けていってほしい。</li> </ul>
教職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の中身を充実させることはとても大事であるが、研修が増えすぎると教職員の負担軽減にはならないので、その兼ね合いを見ながら、ウェブ研修を取り入れるなどして、研修の体系を作っていくしてほしい。</li> </ul>
外国籍の子ども等に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>柏市国際交流協会に最近問い合わせがある中で、(就学児童から)さらに低年齢化して幼稚園・保育園から相談がきている。日本語を学習する機会は、大人向けのものはあるが、子ども向けの平日の夜というのは、なかなか対応できていないので、夜間中学とか自主夜間中学で学ばれているのが現状のようである。</li> </ul>
コミュニティ・スクールの推進に向けたグループワーク	<p>&lt;学校側が地域にお願いしたいこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援(ゲストティーチャー、日々の宿題のサポート、個別支援)、居場所づくり、図書館の開館、環境整備、部活動支援、安全見守り(放課後・行事)、低学年の生活支援、不登校支援</li> </ul> <p>&lt;地域と一緒に取り組んでいくこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校としても防災は重要。地域としても学校が避難所であり、一緒に取り組んでいく必要がある。</li> <li>地域で漢検に取り組むなど、子どもだけでなく地域も一緒にチャレンジする。</li> <li>お祭りに子どもをスタッフとして参加させる。美化活動など、子どもたちが地域と一緒にできる活動を進める。地域への愛着を育てる。</li> </ul> <p>&lt;推進に向けて必要なこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体制、組織をしっかりとつくる。なぜ必要なのか目的を示していく。</li> <li>学校からの要望は見える化する必要がある。また、学校が何をやっているか発信していく必要がある。学校が地域を知ることも必要</li> <li>地域とつながるためには、管理職だけでなく、先生方一人一人と地域とが、顔と顔が分かるつながりがないといけない。</li> <li>マッチングをさせていかないといけない。誰がやっていくかというところを考えていく必要がある。</li> </ul>